

「ジャンジャン横丁」から通天閣へ

大阪といえばキタ（梅田）とミナミ（難波・道頓堀・心齋橋）が注目されるが、阿倍野・天王寺界隈もなかなか風情があって好きだ。30 数年前のことになるが、浪人時代をふくめ大阪市大の大学院の頃に天王寺界隈をよく歩いた。写真の「あべの銀座」から「ジャンジャン横丁」まで歩いたことが思い起こされる。「あべの銀座」あたりは、大阪市による大規模な阿倍野再開発で様変わりした。高層ビルや高層マンションが立ち並んで風景が一変したが、なに

か殺伐とした感じた。

前にもレポートに書いたが、通天閣近くの「ジャンジャン横丁」は昔のように、串



かつ屋やすし屋が繁盛しており、人通りも多い。とにかく格安で庶民向けの店が多く、何軒かの店の前には順番を待つ人もみられた。

大阪といえば通天閣だ。高さ 100m と東京タワーの 3 分の 1 しかないが、久しぶりに近くで見ると、なかなか風格がある。ずいぶん前に上ったことはあるが、遠い景色よりも近くの街並みのほうが印象に残っている。30 数年前と比べて大きく変わったのは、通天閣前の通りを大勢の若者がぶらぶら歩いていたことだ。ここも串かつやふぐなど、

けばけばしい看板の店が多く、行列のできる店もあり、な



んだか活気があった。若い人も含めて、通天閣一带は大阪の「観光スポット」といえるであろう。この通天閣からすぐ近くのところに「フェスティバルゲート」がある。ここは通天閣一带の「活気」と比べ「廃墟」のようだ。これについては別にレポートしよう。

（2007年2月23日 記）